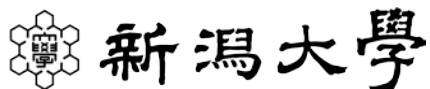


事例報告「新潟大学におけるORCID導入に向けての活動」

NII学術情報基盤オープンフォーラム2018
ORCIDトラック「ORCIDコミュニティの強化に向けて」
平成30年6月21日



研究企画室 URA **平井 克之**

 <https://orcid.org/0000-0003-1657-0035>

評価センター 准教授 **今井 博英**

 <https://orcid.org/0000-0002-1789-3963>

学術情報部長 **岡部 幸祐**

 <https://orcid.org/0000-0001-6859-4413>

学術情報管理課長 **磯谷 峰夫**

もくじ

1. 経緯

2. 取り組みの柱

3. 今後の予定と将来的にみているところ

1. 経緯

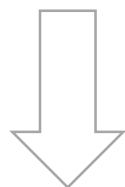
平成29年 秋 **研究推進機構の会議**にて...

本学は全員に対してResearcher IDなどのIDを
取得させていないようだ。

組織として取り組みが必要なのではないか



委員の教授



研究担当理事

次回、URAが報告するように



URA

ORCIDは、大学の所属情報、研究資金の採択情報、論文出版の業績を、
大学、ファンディングエージェンシー、出版社によって、
それぞれが内容をオーソライズしつつ、モダンなシステムでの統合を
目指していることなど、**有力な研究者番号体系**である

継続して調査しよう！



1. 経緯

相談するときの関係者



1. 経緯

相談のながれ

- H29 秋 今井先生、森課長（現・東大）に個別に**相談**
- H29 年末 ORCIDコンソーシアム設立ミーティングにて情報収集（平井）
- H30 1月～ 3人で打合せ。**京大の事例**をベースに、素案が決まる
- キックオフミーティング**
（3人＋それぞれの事務4人＋宮入さん）
- 企画評価担当**理事**に今井＋森で説明
- 企画評価担当**理事**と研究担当**理事**に、3人で説明
- 研究担当理事から**役員ミーティング**で説明
- H30 6月 研究推進機構主催ORCID勉強会（執行部、部局長向け）開催。
メンバー機関として参加するかどうか**役員会**へ

1. 経緯

研究推進機構と原課の役割分担

それぞれのメリットは、それぞれの原課の取り組みによる

評価センター

大学情報DBへの
入力負担の軽減

図書館

機関リポジトリの
プレゼンス向上

学務系

博士課程学生の
修了後の追跡

...

研究推進機構

ORCIDは、研究者ためのもの
... 研究推進機構による推進と調整

2. 取り組みの柱

大学情報データベースシステム
(研究者総覧)の**入力**の負担軽減

手入力を減らす
取り組みです

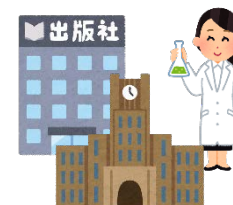


本学研究者が保有するORCIDレコードの
信頼性付与



確かに
新潟大学の
研究者です!

オープンな学術コミュニティへの
組織としての**貢献**



大学、出版社、
研究者などが
協力しています

2. 取り組みの柱 | 入力負担の軽減

背景

大学情報データベースシステムへの入力に対する**負担感**。

とはいえ、**大学として**研究成果を把握しないといけない

原因

大学には、学内研究者が
投稿した論文などの
**研究成果を捕捉する
仕組みがない**



目指すもの

論文投稿時にORCID IDを
入力しておけば、
アクセプトされた際に
DOIと紐付けされ、
研究者総覧への反映は
自動的に行われる

2. 取り組みの柱 | レコードの信頼性付与

背景

ORCIDのSource欄で本人以外が登録内容を**保証**できる
現状は、Sourceが本人なので**信頼性の担保**がない

原因

本学はORCIDの
メンバー機関でなく
データの書き込みが
できないため



目指すもの

人事異動の発令に連動する
システムにより自動的に、
Source欄が新潟大学の
信頼性の高い所属情報が
ORCIDに登録される

2. 取り組みの柱 | 学術コミュニティへの貢献

背景

新たな知は、先達が築いてきた**知の体系**の上に創出される。

オープンな学術情報の流通は、大学の知の創出の基盤

避けるべきシナリオ

学術情報の流通を
特定の企業に依存したり
無関心なままでは、
学問の自由は担保されない

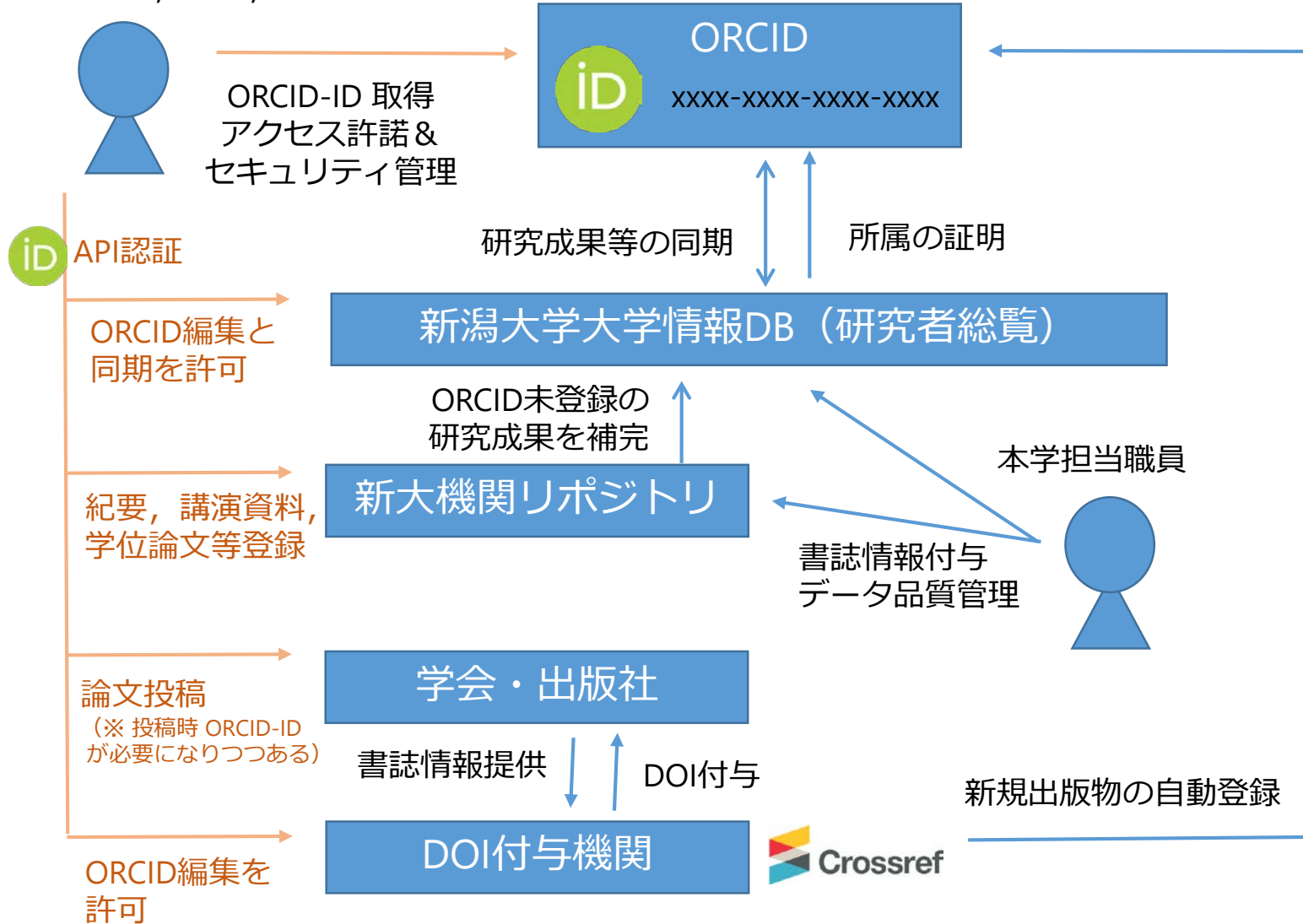


目指すもの

本学がORCIDの**メンバー機関**として参加する。
応分の費用負担は、
学問の自由に対する責任と
継続的な**知の創出**に貢献
する旨の本学の**意思表示**。

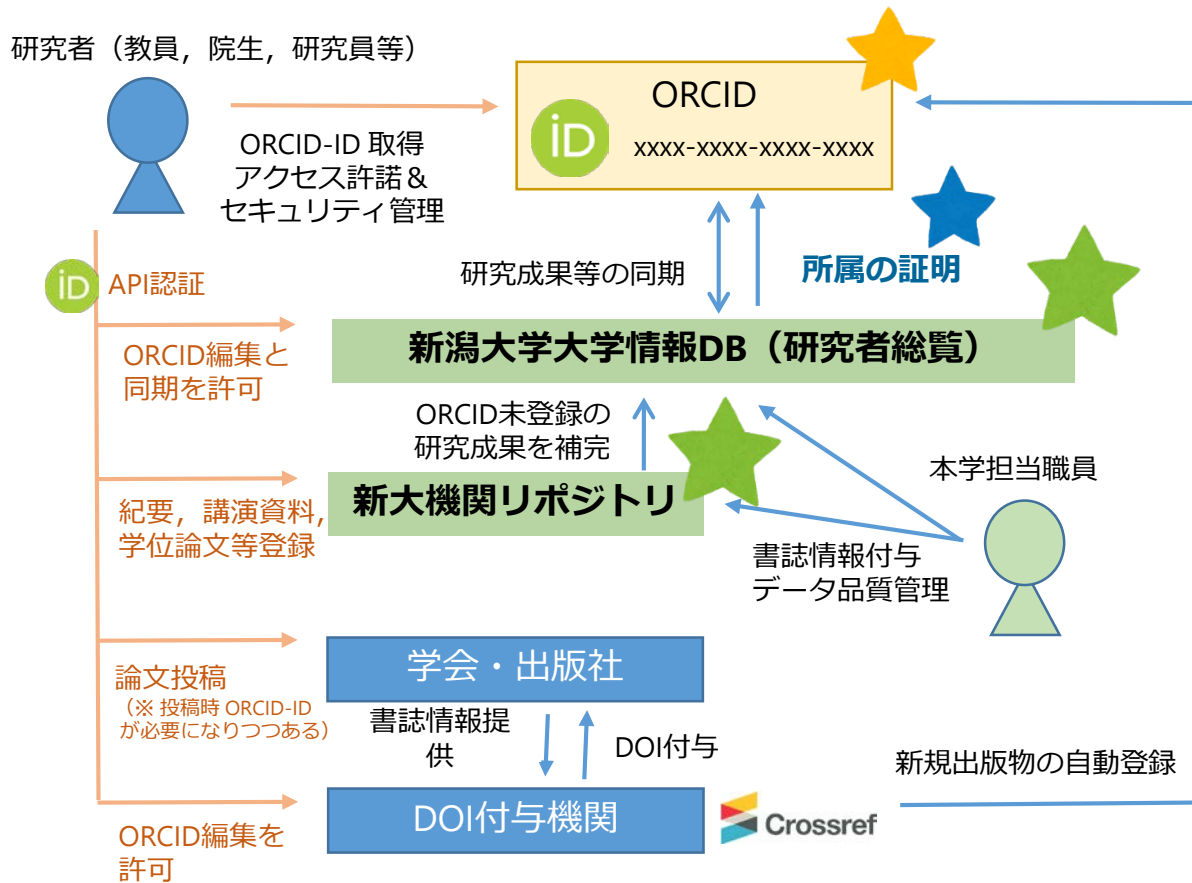
3. 今後の予定 | 入力・収集作業の軽減

研究者（教員，院生，研究員等）



3. 今後の予定 | ロードマップ (たたき台)

データの流れ



運用に向けたスケジュールと費用



3. 理論上できること + 実現可能性

The image shows a screenshot of an ORCID iD profile for 'katsuyuki hirai'. The profile includes sections for Education, Employment, and Works. Three blue circles with numbers 1, 2, and 3 are overlaid on the profile, pointing to specific sections. A large blue box on the right contains text about future discussions. A white box at the bottom contains text about a consultation and a target date.

1 学生の**学歴情報**をSource=新潟大学として書き込み

2 研究者の**所属情報**をSource=新潟大学として書き込み

3 研究者総覧へのリンクバック

将来に向けて検討
(教学部門の意向次第)

ベンダーに要相談
H30年10月運用開始を目指す

3. 理論上できること + 実現可能性



3

所属研究者のORCIDが表示されている
新規出版物を研究者総覧に自動取得

研究者総覧にAPI実装すれば可能。ベンダーに相談



3



WEB OF SCIENCE™

Scopus®

4



4

4

所属研究者の**過去の出版物**を同期

研究者総覧にAPI実装 + 遡及入力ツール + 学内講習会が必要

3. 理論上できること + 実現可能性

5

所属研究者の
研究資金獲得状況を把握

JSPSが採択課題情報をORCIDに反映すれば可能
(開発時期未定)

6

所属研究者の
学会活動状況や**査読**状況を把握

学会等がORCIDにメンバー参加して入力を開始すれば可能
(学会により対応が異なる)

3. 理論上できること + 実現可能性

7

ORCIDを介して**researchmap**と研究者総覧を同期

ResearchmapがORCID認証を開始すれば可能
(2019年度以降予定)

8

研究評価ツールとの連携（そもそも本学は未導入）

連携済みシステムであれば可能

9

機関リポジトリとの連携

学内環境へのインストールと調整が必要
JAIRO Cloudの対応は未定

まとめ

経緯

- 始まりは、研究推進機構の会議
- 学内で関係する部局に相談。役割分担と調整
- 宮入さんからのアドバイス

取り組みの柱

- 入力負担の軽減
- レコードの信頼性付与
- 学術コミュニティへの貢献

今後の予定

- 大学情報データベースシステムの改修

謝辞

森 一郎 さま（東京大学附属図書館 総務課長）